
俺達の恋人...Dawn!

エリカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺達の恋人：Dawn！

【Nコード】

N0877Z

【作者名】

エリカ

【あらすじ】

櫛斗と正哉は、同じ高校から親友だった…あの時までは…正哉が七海に告白するまでは…

正哉の頼み

『なあ…正哉…本当に…いいんだなあ…俺が…七海を幸せにしても』

俺は…空を見上げた…

あの時の…あいつの最後の言葉に…俺は…ずっと…自分に嘘をついていた…

『なあ…權斗…七海を頼むなあ…』

『何！…言ってんだよ…お前…俺に言っただよなあ…七海を幸せにするって…お前さあ…嘘だろ…なあ…夏実とは、付き合っていないだろ？』

『俺だって…守りてよ…！』

『だったら……七海と別れるなよ……』

『無理なんだよ……！……俺は……！ガンなんだあ……もう……長くないだー！』

『冗談だろ……なあ……正哉……嘘だろ……』

『あつあ……本当だなあーっ』

『……その事……七海は、知ってるのかよ』

『七海には……まだ……言っていない……なあ……權斗……七海の本当の……気持ち知ってるかあ？……』

『……七海の気持ち？……なんだよ』

『七海が本当に好きなのは……權斗……お前なんだよ……七海……俺に解らないよに……隠れて……一人でお前の写真を見ながら……泣いてるだせえ……おまえ……知らねだろ……』

『…七海…が…俺を…』

『お前も…本当は…七海が好きなんだろう…頼むよ…七海を俺の分まで幸せにしてやってくれよ…なあ…櫛斗…』

これが…病院での正哉との最後の…会話だった

あの時の正哉の頼みで…俺は…七海の本当の…気持ちを知った…

あいつは…俺が七海が好きだった事も解ってた

あいつと俺は、高校からの親友だった…俺達が七海と出会ったのは…

俺達が高校三年生…で七海が…高校一年生だった…

『なあ…櫛斗…今日も…来てるぞあ』

『本当だなあ…』

あいつとは、三年間…同じバスケットだった…

『本当に七海が好きなんだね…二人とも』

『……何だよ…うるせよ…夏実』

『ハイハイ……』

マネージャーの夏実が…いつも…声をかけて来る…

それを…いつも…正哉が答えていた…

夏実の言う通り…俺達は…本気で七海が好きだった…

『ねえ…七海…七海はさあ…櫛斗先輩と正哉先輩…どっちが好きなの?…』

『由香理!…!!何!…いきなり…』

『…何ってねえ……冗談だよ…七海』

『……由香理!…!』

応援席での…七海と由香理…の会話だった…

由香理は、その時…すでに…解ってた……七海が俺の事…好きだった事…も

いつも…七海は、俺達の…癒しだった

試合や練習が終わると…七海は、ランチボックスを持って…俺達に…差し入れをしていていた

『お疲れ様…です、差し入れです』

『サンキュー…なあ…七海…』

『上手そうじゃん…七海が作ったの？…食べよぜえ』

あいつの大食い…食べる姿…七海の嬉しそうなあ…顔…俺は、そんな…二人が…好きだった…

あの時、までは…

あいつが…七海に告白するまでは…

『…何ですか？…こんな所に』

『…俺、お前と…出逢ってから…ずっと…七海…お前が…好きだった…』

『正哉先輩…！…私…っ』

『フリイ…急に言われても…困るよな…』

あいつは…俺よりも…マジだった…

次の日の…朝練習の時に…

あいつから…聞かされた…

正哉の告白

『…なあ…櫛斗…俺さあ…』

『何！…マジになってんだよ』

『櫛斗…俺…七海が好きだ！』

『正哉…お前…！七海にコクったのかあ？』

『ああ…』

練習が終わった…後に…あいつから…聞かされた…

『……正哉…！…七海を泣かしたら……許さねえからなあ…』

あいつだったから…許したんだあ…

…その日の…お昼休み

屋上で真剣に悩む…七海の姿があった…

『はあ……っ』

俺は、思わず…七海の頭をぽんと…軽く叩いた…

『……あいつに…コクられたんだって?』

『はい…私、どうすれば…』

『いいんじゃないねえ…あいつと付き合ってやれよ……なあ…七海…』

『でも…私…』

『何…戸惑ってんだよ…あいつだったなら…大丈夫だって…なあ…やべえ…時間だ…七海!…授業始まるぞあ』

七海の気持ちを知らずに…俺は…あいつと付き合いつよに…仕向けた…

その一週間後…七海は、あいつと付き合い始めた…

七海は、ほぼ…正哉と一緒にいることが多くなり…

あいつと俺もバスケット部を引退し…

お互い…進路が決まり

一緒にいることは…無くなった…

卒業…それぞれの旅立ち

そして……卒業間近だった…

ある日の…夕暮れの放課後…

『あれ？……由香理ちゃん…まだ、帰らないの？』

『はい…っ……』

『なあ……見てみ…』

『わああ……綺麗ー』

俺は、一人でいる…由香理に…声を掛けた…

その日は、綺麗な…夕日を…二人で見つめていた

『由香理ちゃん……俺と付き合ってくれない？』

『…………えっ…………！…………櫛斗せっ…………』

由香理からの返事も聞かず…………俺は、由香理に…………キスをした…………

俺は…………七海では、無く…………由香理を…………選んだ…………

あれから…………三年が立ち

由香理達も…………卒業して…………

お互い…………社会人になった…………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0877z/>

俺達の恋人...Dawn!

2011年12月5日19時57分発行